

食エネ自給の地域づくりを実践

小山田 大和さん(小田原かなごてファーム)の講演から



通信員総会で講演する
小山田さん

SDGsは現代社会のキーワードです。農業の持続性を担保するのに、再生エネルギーを結びつける取り組みを神奈川県で実践する合同会社・小田原かなごてファームの小山田大和さん。昨年11月13日、建設ラザ東京で行なわれた通信員総会での講演の一部を紹介します。(文責・見出しも編集部)

ソーラーシェアリング使用

持続性のある農業に

私は2013年から農業に携わり、様々なことを試みましたが、それだけでは農業の持続性を担保できないという結論に至りました。そこで、私が2009年ごろからやっていたエネルギー問題を農業と結びつけられないかと探している中で出会ったのがソーラーシェアリング(営農型太陽光発電)です。

私は農業の素人でしたが、農業をやりたいならその上で発電するのは、とてもいい仕組みだと思いました。最初は自分で作る気はありませんでした。農家の方に「こんな面白い取り組みがある」と話をして、支援するから作ってください」とお願いしに行きました。誰もやってくれませんが、農家の方は「ソーラーで日陰を作って作物ができるわけがない」と言うのです。そのようなときに、人間のとる方

法は2つです。諦めるか、自分で作ってしまうかです。自分で作って、これがソーラーシェアリングですと見せて、「やってもいいよ」と土地を貸してもらい、「よ」という人が現れ、それでわずか100坪程度の土地でやりました。この発電所は15・12kWの発電規模しかありませんでした。これを作った小泉元首相にも来てもらったりして、やる人がふえるかと思ったら、誰もやってくれませんでした。

2号機ではお米作り

くじけないのが私のいいところです。そこで私は2号機を作りました。これは58・24kWあり、事業化を前提にやりました。ここではお米を作っています。

よく言われるのはトラクターやコンバインが入るのかという事です。きちんと入るようにソーラーを設計しています。もう一つは日陰を作った収量が保てるのかということ。パネルの間には光が入るように隙間があり、遮光率が30〜40%ほどで設計します。光の照度は100〜110Klx程度ですから、3〜4割の

遮光で、地面の所では70〜80Klxが入ってきます。植物は光飽和点があって、一定の光を注げば生育には影響はない。お米の光飽和点は40Klxなのでソーラーシェアリングでも生育に問題ありません。小田原かなごてファーム(以下、かなごて)は城南信用金庫からの融資を受けてソーラーシェアリングを作りました。城南信金は東日本大震災が起きた時、いち早く「脱原発」を表明し、自然エネルギー推進だということでした。



太陽光パネルの下での米づくり



小山田さん

いう事業に融資しています。かなごては東京電力の送電線を使いながら、売電先は東京電力ではなく、2号機については世田谷にある「みんな電力」に売っています。今は「うちで作った電気をどこで使ってください」ということができます。「みんな電力」から皆さんも存じの企業などにも供給しています。

カフェに届け車の充電にも

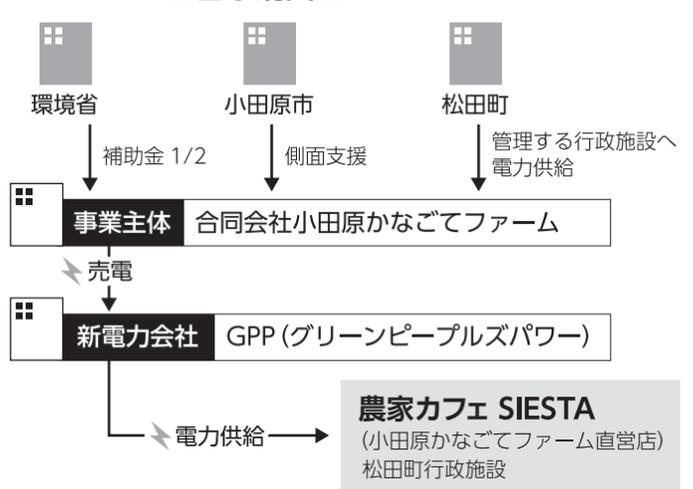
全国初の自家発電型

3号機では、日本で初めてノンフィットモデル、つまり自分で作った電気を自分が所有する施設に既存の送電線を使って届けるといったこともやっています。

3号機では新宿区にあるグリーンピープルズパワー(GPP)に売電をしました。GPPにしたのは2020年当時、ノンフィットを値段が釣り合っている新電力会社はここだけだったからです。そこから「農家カフェシエスタ」に届けました。全国初のノンフィットモデル、オフサイト型(電気を作っているところと電気を実際に使うところが物理的に離れている型)の自家消費モデルのソーラーシェアリングです。それで食エネ自給をめざすシエスタを開店させました。

中古の電気自動車を買いました。かなごてで作った電気を既存の送電線を使って農家カフェに届ける。そこで使われる電気はすべてうちの電気に元が取れます。ずかに5万円。近くに巨大な電気を送るところがあって、送電線が太かったりすると容量があるので安くなくなります。接線負担金が高すぎることは全国初の

全国初 Non-FITモデル オフサイト型自家消費型のソーラーシェアリング



市民の出資 1日で8百万円

ば、100%自前の、しかも自然エネルギーで車を走らせることになるじゃないですか。CO₂は一切出しません。こんなに爽快なことはありませんよ。そういう社会が目前に来ているのです。今、ガソリン代が高騰していますが、中古車の購入価格はあつという間に元が取れます。大きく変えていくことが社会を思ったのです。以前は自分の作った電気で、しかも自然エネルギー100%で車を走らせることはおろか、自分で発電することはおろか、自分が発

小規模で 地域分散型に

エネルギー政策を変えることは、革命とは言いませんが、それに近い。抜本的に変えていくということです。だから、今の政治家や電力事業を牛耳っている人たちは変えたくない。しかし間違いなく国民を豊かにするならば、大規模集

エネルギー民主主義

非常に大きい送電線問題

市民のための1発電所です。4号機は小ぶりの200坪程度のところでもありました。接線負担金の話になります。3号機の接線負担金は213万円ですが、4号機はわ

で、自然エネルギーをつくらないところも出てきています。送電線の問題は非常に大きい。これは国の政策が変わらないと変わりませんが、国民全体にすく影響を与えます。